

株式会社伸和光機

エコアクション21

環境活動レポート

対象期間：2019年8月～2020年7月

発行：2020年9月18日

《環境方針》

《基本理念》

私たちは、地域環境の保護と事業活動の両立を基本理念として、地域社会への貢献に努めます。

《基本方針》

私たちは「花巻の自然を守ります」をスローガンに、従業員一人一人が環境への配慮を心掛け、自然への思いやりにあふれた空間づくりを目指します。

1. 事業活動によって生じる環境負荷の低減、及び資源の有効活用を環境目標に定め、定期的に見直し、継続的な改善を行います。

特に次の事項を重点的に取り組みます。

- ①電気使用量、燃料使用量の削減
- ②紙類使用量の削減
- ③不良品発生量の削減
- ④産業廃棄物の分別、リサイクルの推進
- ⑤水資源の現状維持
- ⑥グリーン購入の推進
- ⑦化学物資の適正使用と管理

2. 環境関連法を遵守し、環境汚染の防止や環境保全の継続的改善を図ります。
3. 「地球にやさしい」、「環境保全につながる」活動には積極的に参加します。
4. 本方針は全従業員に周知するとともに、社会環境教育などを行い実施します。
5. 本方針は社外からの要求や、その他必要に応じて開示致します。

株式会社伸和光機

代表取締役 豊川 正仁

事業概要

1. 事業者名及び代表者

株式会社伸和光機 代表取締役 豊川 正仁

2. 所在地

本社 〒025-0084 岩手県花巻市桜町四丁目 259 番地 1
TEL 0198-22-2131 FAX 0198-23-5101

第二工場 〒025-0015 岩手県花巻市東十二丁目 19-105
TEL 0198-21-3340 FAX 0198-21-3341

名取工場 〒981-1221 宮城県名取市田高字原 345
TEL 022-393-8182 FAX 022-393-8183

3. 環境管理責任者及び EA21 事務局

役職：管理部次長 氏名：菅野 篤史 e-mail：a-kanno@s-kouki.co.jp

4. 事業活動の内容

- ・ 部品加工、部品購買
- ・ 各種製造、組立（光学機器・精密機器・医療機器・電気機器・業務用機器等）
- ・ 3D CADによる部品治工具の設計、試作
- ・ 組込システム設計、試作
- ・ 基盤回路設計、試作

5. 事業規模（第 43 期 2019. 8. 1～2020. 7. 31 実績）

- ・ 資本金 3,000 万円
- ・ 売上高 86,499 万円
- ・ 本社工場床面積 1,924.98 m²
- ・ 従業員 83 名（2020. 7 末 内パート 14 名）

6. 適用事業範囲

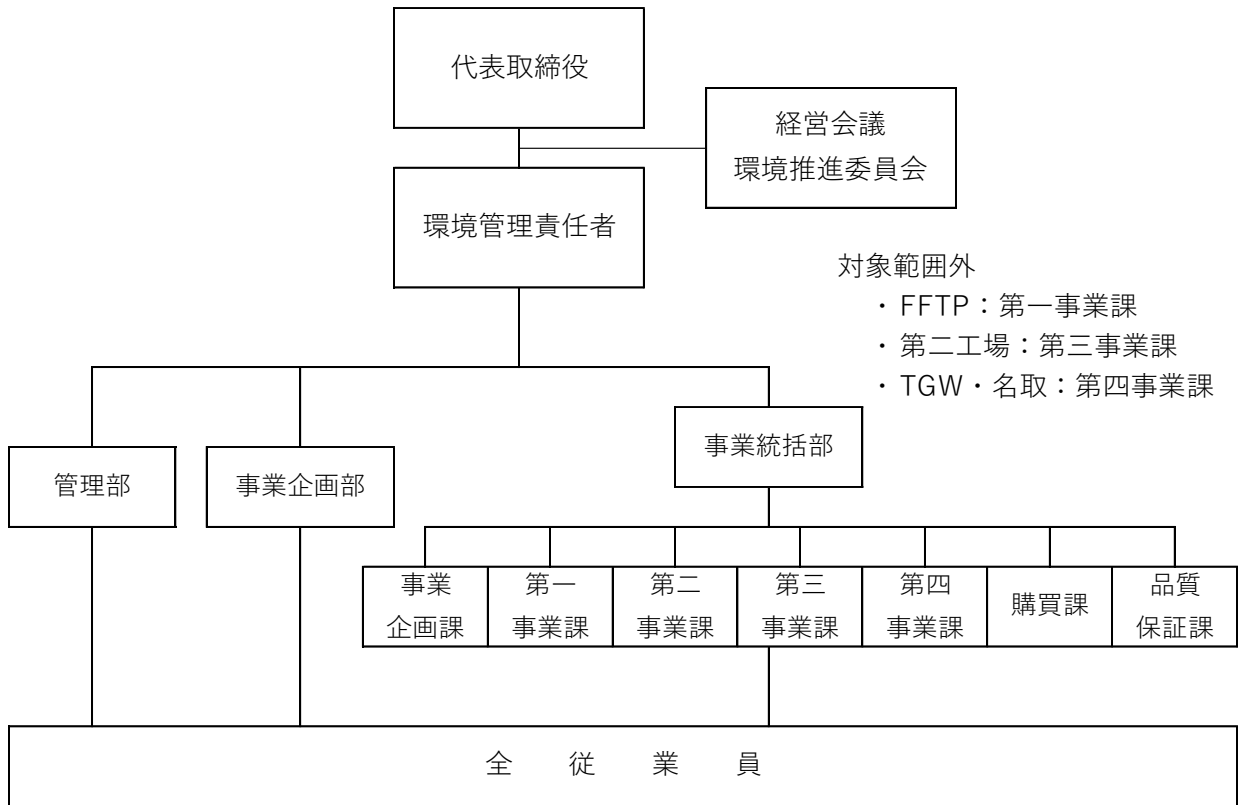
- ・ 本社工場 ※第二工場及び名取工場は本対象期間に稼働したため
今回は対象範囲外とする。なお、2021 年 7 月までを
目途に対象範囲とする。

7. 沿革

- 1977. 4 創業
- 1977. 8 有限会社伸和光機に組織変更
- 1984. 5 株式会社に組織変更
- 1984. 11 現在地（花巻市桜町）に移転
- 1992. 10 資本金 1000 万円に増資
- 2008. 2 エコアクション 21 の認証取得
- 2008. 4 本社工場を増築
- 2018. 7 資本金 3000 万円に増資
- 2018. 8 ISO9001 認証取得
- 2018. 12 名取工場（宮城県）開設

実施体制

1. 組織概要



※2020年3月1日現在

2. 実施体制

役職	役割と権限
代表取締役	①環境方針の策定 ②経営資源の準備 ③全体の評価と見直し ④環境活動レポートの承認 ⑤環境目標及び環境活動計画の承認 ⑥環境管理責任者の任命
環境管理責任者 (産廃管理者)	①環境経営システムの構築、実施、管理 ②環境活動レポートの作成 ③環境活動実績の確認、評価 ④その他 EA21 推進に関する業務
経営会議 (環境推進委員会)	①環境目標及び環境活動計画の結果確認 ②EA21 に関する審議、その他関連事項への対応協議
各部署長	①EA21 環境活動計画に基づく取組の実施奨励 ②取組内容のチェック、是正指摘事項の改善 ③従業員に対する教育訓練の実施
従業員	①環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚し、能力向上に努める。 ②決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する。

環境目標

今年度 2019 年は、2018 年度の実績を基準設定とした環境活動新 3 ヶ年計画の初年度でした。

年度			2018(基準年)		2019			2020		2021	
			実績	原単位	目標	原単位	コメント	目標	原単位	目標	原単位
売上高	全体	万円	59,167	/	96,483	/		/		/	
	本社	万円	30,602	/	62,246	/		/		/	
	請負(TGW/FFTP)	万円	15,041	/	12,537	/		/		/	
	第二工場	万円	9,217	/	8,900	/		/		/	
	名取工場	万円	4,307	/	12,800	/		/		/	
CO2排出削減 定量	電力	kWh	203,566	#DIV/0!	305,000	4.900	2019年度以降売上倍増の事業計画	366,000	#DIV/0!	366,000	#DIV/0!
	灯油	L	601	#DIV/0!	595	0.010		589	#DIV/0!	583	#DIV/0!
	軽油	L	6,747	#DIV/0!	6,500	0.104		6,500	#DIV/0!	6,500	#DIV/0!
	ガソリン	L	2,297	#DIV/0!	2,520	0.040		2,520	#DIV/0!	2,520	#DIV/0!
	客先クレーム件数	件	/	/	4	0.000		2	#DIV/0!	0	#DIV/0!
	一般廃棄物	kg	1,830	#DIV/0!	1,830	0.029		1,830	#DIV/0!	1,830	#DIV/0!
	産廃再資源化量	kg	2,950	#DIV/0!	2,950	0.047		2,950	#DIV/0!	2,950	#DIV/0!
	リサイクル(再資源化)	kg	13,750	#DIV/0!	15,000	0.241		15,000	#DIV/0!	15,000	#DIV/0!
	水資源(上水)	m ³	829	#DIV/0!	820	0.013		813	#DIV/0!	804	#DIV/0!
	社会貢献	件	2	/	3	/		3	/	3	/
化学物質	kg	PRTR法該当化学物質については、使用量が全て10kg未満である事から、購入量のみ管理									

※2020年、2021年の原単位は事業計画が出たら記載する

環境活動計画

環境目標達成に向け、環境方針に基づき二酸化炭素、廃棄物、水資源使用量を削減し、経営者を始めとし全社一丸となって、省エネや廃棄物の削減、リサイクル等に取り組んでおります。取組結果は以下の通りです。

株式会社 伸和光機 EA-21 環境経営計画

期間 2019年8月～2020年7月
 評価期間 ① 2019年8月～2019年10月
 ② 2019年11月～2020年1月
 ③ 2020年2月～2020年4月
 ④ 2020年5月～2020年7月

「●」は今回新規追加した内容

項目	内容	頻度	担当	評価				
				①	②	③	④	
マネジメント	●全事業所へ活動範囲拡大するための環境経営システムの構築	—	環境管理責任者	△	△	△	△	
	●経営会議時、環境目標活動の達成状況の報告	3か月に1度		○	○	△	△	
CO2 排出量 削減	電力	節電シール掲示、朝礼による意識向上	随時	職場担当者	○	○	○	○
		消灯徹底(使用設備電源の消灯確認)	休憩、終業時		○	○	○	○
		離席時のPCモニターOFF、未使用時パソコン電源OFF徹底	随時	使用者	○	○	○	○
		エネルギー効率の良いOA機器選定利用		購入者	×	○	○	○
		室内温度管理徹底(夏期26度・冬期22度)	夏期(6月～9月)	管理課	×	—	—	△
			冬期(10月～4月)		—	×	×	—
		空調室外機の屋根を設置し、燃焼効率の向上を図る	随時		○	○	○	○
		電力モニター使用による使用量の把握とデマンド管理	随時		○	○	△	△
		蛍光灯の間引き、蛍光灯のワット数ダウン	随時	環境管理責任者	×	×	△	△
		抜本的な電力使用のコントロール方法検討と実施			×	×	×	×
	灯油	室内温度管理徹底(冬期22度)	冬期(10月～4月)	生産管理係	—	×	△	—
		ビニールカーテンを活用し、暖房効率を向上させる	随時	職場担当者	—	△	○	—
	ガソリン	エコドライブ・アイドリングストップの励行	随時	使用者	△	△	△	△
		急発進、急加速、急停止を避け、なるべく一定速度を心掛ける			○	○	△	△
エコドライブ・アイドリングストップの励行		△			△	△	△	
急発進、急加速、急停止を避け、なるべく一定速度を心掛ける		○			○	△	△	
軽油	不要な荷物を積まない	随時	使用者	○	○	○	○	
	最短ルートを検索し走行距離を減らす 走行距離管理			○	○	○	○	
				○	○	○	○	
不良率削減	不良品を削減し、生産工程歩留まりの向上に努める	随時	工程管理者	△	△	○	○	
OA紙使用量削減	裏面利用の推奨	随時	使用者	○	○	○	○	
	両面、集約印刷の推奨			○	○	○	○	
	会議資料の削減(プロジェクター活用推進)			○	○	○	○	
	現場管理資料の管理方法見直し(紙管理からデータ管理に変更)			職場担当者	○	○	△	△
廃棄物削減	ゴミの分別を徹底し、リサイクル化を推進(従業員への周知徹底)	随時	全従業員	○	○	○	○	
	指サック・マスクの使用量削減推進		使用者	△	○	○	○	
	通い箱の有効利用		全従業員	○	○	○	○	
	ビスの再利用推進		職場担当者	△	△	△	△	
	白黒印刷推奨		使用者	△	○	○	○	
リサイクル率向上	ゴミの分別を徹底し、リサイクル化を推進(従業員への周知徹底)	随時	全従業員	○	○	○	○	
	包装、梱包材の再利用、通い箱化の推進		資材担当者	○	○	○	○	
	段ボール、部品トレイ類は再生原料で処理委託		環境管理責任者	○	○	○	○	
	●金属類、雑線は分別収集し、再生処理委託			○	○	○	○	
水資源使用量削減	節水シール掲示、朝礼による意識向上	随時	環境管理責任者	○	○	○	○	
	漏水確認の徹底			○	○	○	○	
グリーン購入の推進	エコマーク商品を優先的に購入する	随時	購入者	○	○	○	○	
地域貢献活動	地域清掃活動の呼び掛けに積極的に参加する	随時	環境推進委員会	×	×	—	—	
	地域中学生の職場体験を受け入れ、物作りの楽しさを提供する	年1回～2回	工程管理者	×	×	—	—	
	障がい者の職場実習体験を受け入れる	随時	工程管理者	○	×	—	—	
社会貢献活動	ペットボトルのキャップを回収し、ワクチン購入に役立てる	随時	全従業員	—	—	—	—	
	●学生服の再利用への協力	年1回	全従業員	△	△	○	—	
化学薬品使用量把握	化学薬品使用量を量る	1回/月	環境推進委員会	—	—	○	○	
	有害物質の把握	新規購入時		○	○	○	○	

○:評価できる
 △:まずまず評価できる
 ×:評価できない

改定履歴						承認	作成
1	制定	2007年6月1日	5	改定	2013年3月5日	豊川	菅野
2	改訂	2009年10月1日	6	改定	2013年8月20日		
3	改訂	2010年10月1日	7	改定	2015年10月13日		
4	改訂	2012年12月10日	8	改定	2016年8月1日		
			9	改定	2017年7月19日		
			10	改定	2018年8月1日		
			11	改定	2019年8月30日		
			12	改定	2020年5月13日		

環境目標の実績

1. 環境目標項目に対する実績と評価

環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。

今回は、2019年8月から2020年7月までの実績についての評価結果を報告致します。

2019	目標	実績	達成率
売上高	全体 96,483	86,499	89.65%
	本社 62,246	62,848	100.97%
	請負 12,537	12,142	96.85%
	第二工場 8,900	6,762	75.98%
	名取工場 12,800	4,747	37.09%

※2019年度は本社のみ

※売上単位=万円

※原単位にて

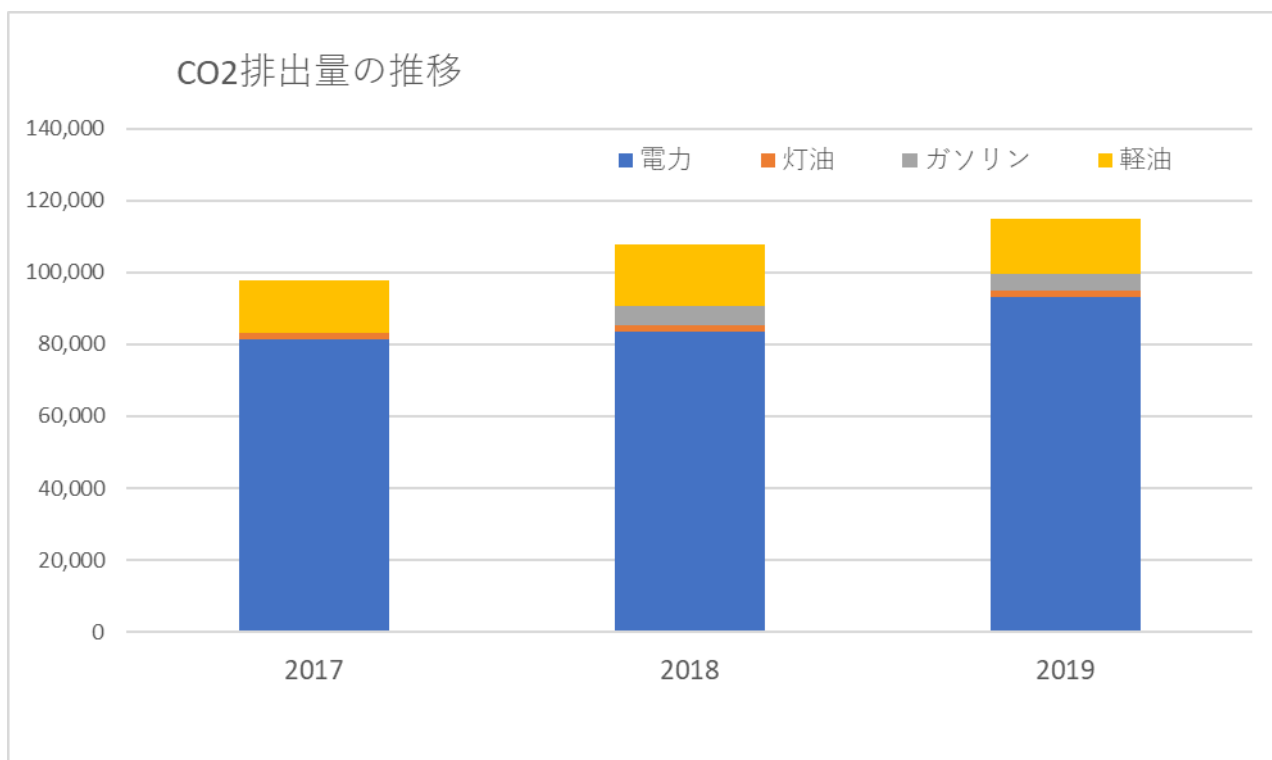
3ヵ年環境目標項目			目標		結果		達成度	
			目標値	原単位	実績値	原単位	達成率	評価
① CO2 排出 削減	1. 電力使用量【単位=kwh】	年使用量	305,000	4.900	232,943	3.706	132%	○
	2. 灯油使用量【単位=l】	年使用量	595	0.010	703	0.011	85%	×
	3. ガソリン使用量【単位=l】	年使用量	2,520	0.040	2,035	0.032	125%	○
	4. 軽油使用量【単位=l】	年使用量	6,500	0.104	5,879	0.094	112%	○
⑤	客先クレーム件数	【単位=件】	4	-	29	-	14%	×
⑥	一般廃棄物	【単位=kg】 年間総廃棄量	1,830	0.029	2,570	0.041	72%	×
⑦	産廃再資源化量	【単位=kg】 産業廃棄物再資源化量(マニフェスト発行)	2,950	0.047	3,170	0.050	106%	○
⑧	一般廃棄物リサイクル量	【単位=kg】 一般廃棄物再資源化量	15,000	0.241	11,030	0.176	73%	×
⑨	水資源使用量削減(年間使用量)	【単位=m ³ 】	820	0.013	688	0.011	120%	○
⑩	社会貢献	【単位=件】 年間回数	3	-	4	-	133%	○
⑪	化学物質使用量	【単位=kg】 PRTR法該当物質(購入量にて)	-	-	2.64	-	-	○

※化学物質使用量は年間使用量が10kg未満のため、購入量にて管理

全11項目中7項目の達成（達成率63%⇔前年27%）状況となりました。

なお、今回対象外である第二工場及び名取工場についても、①～④、⑨の項目については順次各データは取得しており、全社認証の対象範囲とするために活動中です。

2. 二酸化炭素 CO₂排出量



(単位：kg-CO₂)

	2017	2018	2019
電力	81,234	83,665	93,160
灯油	1,818	1,496	1,750
ガソリン	0	5,330	4,721
軽油	14,843	17,408	15,167
合計	97,895	107,899	114,798
売上高(万円)	28,081	26,726	62,848
売上比	3.49	4.04	1.83

※本社のみ

二酸化炭素の排出量は増加しておりますが、売上比で見ると減少しております。

※CO₂排出係数

種類	排出係数	単位	出展元
電力	0.416	(kg-CO ₂ /kwh)	日本テクノ (電気事業者別排出係数より)
灯油	2.49	(kg-CO ₂ /L)	環境省 HP「算定方法・排出係数一覧」より
ガソリン	2.32	(kg-CO ₂ /L)	
軽油	2.58	(kg-CO ₂ /L)	

3. 環境活動の状況

①化学物質の適正使用に対する取り組みについて

使用や保管に注意が必要な溶剤などは、SDS を元に使用するものに応じて必要な環境を整え、購入量を管理する事により、化学物質の定期的な管理、及び適正使用を確認しております。

また、有機溶剤が漏洩した際の処理の訓練も実施しております。

②社会貢献活動について

環境方針にある『花巻の自然を守ります』をモットーに、これを実践するため周辺地域のゴミ拾い、清掃を定期的実施しております。

地域をクリーンに維持する事で、社員一人一人の環境保全の意識も徐々に高まっているものと実感しております。

《今期実施項目》

- ・花巻機械金属工業団地内の側溝清掃及び草刈り活動
- ・障がい者の就労訓練の受入
- ・制服、運動着の寄付事業への協力
- ・ペットボトルキャップの寄付

環境活動計画の取組結果と その評価、次年度以降の取組内容

1. 取組結果の評価

環境への取り組み自己チェック分析評価表

分類項目	取り組み施策	評価点		満点数		取組実施率(%)	
		2018	2019	2018	2019	2018	2019
1、事業活動のイン プットに関する 事項	1)省エネルギー	72	74	102	126	70.59%	58.73%
	2)省資源	27	30	32	42	84.38%	71.43%
	3)水の効率的利用及び日 常的な節水	10	7	16	10	62.50%	70.00%
	4)化学物質使用量の抑制 及び管理	15	20	24	34	62.50%	58.82%
2、事業活動から のアウトプットに関 する項目	1)温室効果ガスの排出抑制、 大気汚染等の防止	8	8	12	12	66.67%	66.67%
	2)廃棄物等の排出抑制、リサ イクル、適正処理	62	64	84	92	73.81%	69.57%
	3)排水処理	0	8	0	8	#DIV/0!	100.00%
	4)その他生活環境に係る保 全の取組	0	3	0	4	#DIV/0!	75.00%
3. 製品及びサー ビスに関する項目	1)グリーン購入(環境に配 慮した物品等の購入、使用 等)	10	10	16	14	62.50%	71.43%
	2)製品及びサービスにお ける環境配慮	30	26	46	34	65.22%	76.47%
4. その他	1)生物多様性の保全と持続可 能な利用のための取組	0	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
	2)環境コミュニケーション 及び社会貢献	4	8	20	26	20.00%	30.77%
	3)施主・事業主における建築物 の増改築、解体などにあたっての 環境配慮	3	5	6	10	50.00%	50.00%
合 計		238	263	352	412	67.61%	63.83%

前年と比較し、△3.78ポイントとなりました。全社認証範囲を見据え、要実施事項が増加したものの、それに対応しきれていないのが現状です。

項目		実施状況の評価		達成度	数値目標に対する達成結果	
①	C O 2 排出量の抑制	照明	工場内、事務所内ともに休憩時間等の消灯が徹底されている。	○	電力	○
		冷暖房	夏場の2階が特に熱がこもる事により、室温が下がりにくい。作業効率等との兼ね合いもあるので、一概に温度設定を下げられない部分もあるので、他の項目で対応したい。	×		
		節電	全体的に節電の意識は高いと思われるが、照明の消し忘れ等が見られた。	△		
② ③	抑制	車両	名取工場の増設により、名取工場への行き来が増加している事に伴い、使用量も比例している。エコドライブの推進を図る。	○	燃料	○
④		その他(灯油)	第二工場の再稼働により使用量が増えた半面、事務所の集約により灯油ヒーターの使用量は減少した。	△		×
⑤	製品	客先クレーム件数	新規業務の立ち上げや人員の変更などにより、クレームが多発した。ほとんどがポカミスによるもので、チェック体制の強化や治具制作により、減少を図る。	×	不良率	×
⑥	排出物抑制	一般廃棄物	売上増加に伴い、廃棄物も比例して増加する事はやむを得ない。分別(プラ、段ボール、雑線、金属など)の意識は高く、再資源化も実施されているので、引き続き社内意識の向上を図る。	△	廃棄物	×
⑦		産廃再資源		△		×
⑧		一般廃棄物リサイクル		○		○
⑨	節水	用水・排水	人員集約による水道使用量が増加したものの、節水に対する意識は高く、引き続き励行する。	○	水資源	○
⑩	地域・社会貢献		障がい者の就労研修の受入を実施する事ができた。	○	貢献域	○
⑪	化学薬品		購入量の把握とSDSの取得により、適切に管理している。	—	—	○

○：評価できる △：まずまず評価できる ×：評価できない

2. 次年度の取組内容

(1) 二酸化炭素排出量の削減

業務受注量の増加に伴う CO₂排出量の増加を最低限に留めるように引き続き省エネルギーに努める。特に、名取工場新設に伴う異動や運搬業務に伴う車両燃料使用量の増加が見込まれる事から、エコドライブ及び無駄な走行が無いよう運行管理を徹底する。また、冷暖房関係については作業員の体調面を考慮し、機械的に温度を管理するのではなく、状況を見てタイマーを利用し、早めの電源オンオフ等の対応を行う。

(2) 廃棄物の排出削減

工程現場の分別は概ね徹底されている。判断に困る廃棄物（基板、ゴムマットなど）の廃棄方法について、業者等に確認し、更に徹底した分別を行い、リサイクル率の向上を図る。

(3) 客先クレームの撲滅

2020年3月より品質保証課を立上げ、クレームや工程不具合、3S活動について全社的に活動を展開している。特にクレームに関しては、ポカミスが原因の大半を占めている事から、出荷検査や治具制作により対策を図る。また、3S活動の一環として、定期的な工程内のパトロールも実施する。

(4) 節水

引き続き節水に努める。

(5) 地域・社会貢献

必ず実施できる項目（草刈り、ペットボトルキャップの回収）以外でどのような地域貢献が実施できるかの再検討が必要。

(6) 化学薬品の管理

PRTR法に該当する薬品の購入量の管理、及びSDSを元にした適正管理を行う。また、有機溶剤が漏洩した際の対応訓練も引き続き実施する。

(7) ガイドライン2017年版への改訂に伴う、環境システムの再構築

エコアクション21のガイドライン改定（2017年版）に伴い、環境システムの再構築が必要となる。全社認証を見据え、昨年途中より第二工場と名取工場のデータ取得も開始。2021年7月を目途に全社対象とする。

環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける環境基本法など、環境関連法規について遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。

また、過去3年間、関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情、訴訟等について、問題ありませんでした。

代表者による全体評価と見直しの結果

当期は新たな3ヶ年環境目標を設定した初年度でありました。

まず、当期は何と言ってもコロナウィルス感染拡大により、3月以降世界全体の経済活動がストップし、7月に予定されていた東京オリンピックも1年延期となるなど、世界的に多大な影響を及ぼし、まだ収束する気配もありません。

そういった中で、会社の業績といたしましては、本年より部品加工・部品購買業務を本格的に立上げ、売上としては前年比146%となりましたが、上記コロナウィルスの影響により計画が下振れする等もあり、最終的な経常利益は計画に対し達成とは至りませんでした。

環境の面につきましては、2017年版のガイドラインに本格的に移行した初年度で、会社の環境活動を環境のみに留めるのではなく、企業の利益に結び付ける様な活動「環境経営」として位置づけ、再スタート致しました。

2019年は3ヶ年中期計画の初年度として活動して参りましたが、概ね目標は達成している事から、今後の最大の目標は全社を認証範囲とすべく活動する事です。現在は本社工場のみとなっておりますが、2021年7月までには第二工場及び名取工場を認証範囲とすべく、全社に環境活動を展開して参ります。

「今まで経験した事のない今がある。そして経験した事のないこれからがある」

これからは、従来の考え方や方法が通用しない、変化のスピードが速い時代に突入します。会社の行動指針である「柔軟な判断と行動で対応する」を心掛け、会社の業績に資する様な環境経営の構築・運用に努めます。

2020年9月18日

株式会社 伸和光機

代表取締役 豊川 正仁